

# BN e News

2011.Autumn

## 【特集】

- 1.食物栄養科学部創立10周年に向けて(その2)……1-2
- 2.別府大学の就職・進路支援体制……3-4  
(附:2010年度の進路状況)

## contents

### ●教育CloseUp

- 人間関係学科の挑戦……5
- 短期大学の免許・資格教育……6

### ●研究者インタビュー

- オカナートマース (文学部 助教)……7
- 杉野寿子 (短期大学部 准教授)……8

### ●国際交流……9

### ●学生の活動……10-11

### ●学園News……12-13

### ●新任者紹介……14

### ●学校法人別府大学の事業報告(抄) ……15-17

### ●新聞掲載記事……18



敷島 唯 「雨上がりに満ちる」S100 油彩

## 食物栄養学科10年の歩みと今後の展望



食物栄養学科  
学科長 安房田司郎

食物栄養学科は、大分県下唯一の管理栄養士養成施設として2002年4月に発足し今年10年目を迎えています。

発足から4年間は、学年進行ごとに、新しい授業の開講、海外研修旅行の実施、臨地実習を実施するための交渉や事前準備、国家試験対策、就職先の開拓など、軌道に乗るまで教員それぞれが忙しい日々を送りました。2003年には、大分県栄養士会や県等行政の協力の下で、改正間もない新カリキュラムに対応した臨地・校外実習内容の決定、病院、福祉施設、保健所等への説明、受け入れて下さる実習施設への訪問依頼を行いました。これまでに、保健所、市町村保健センター、病院など延べ250余りの施設で実習をさせていただきましたこととなります。また、2004年から地域の高齢者の健康体づくり教室が別府市から委託され、別府大学と別府市の共同事業として始まりました。「湯けむり健康教室」と名付けたこの教室は、高齢者の運動教室と栄養相談・指導を組み合わせたもので、健康センターと食物栄養学科の教員が、授業の一環として運動指導や栄養相談・指導を実施するなかで学生が体験的に学習

するユニークな取り組みとなっています。2006年からは別府大学単独の事業として、年間を通し市の温泉施設と別府大学の健康センターを使用して行われています。これまでに地域の高齢者65名が教室に参加され、体力向上や栄養改善例がみられるなど健康づくりに貢献しています。

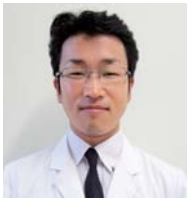
2005年に1期生72名が卒業してから6期生まで計441名を送り出しました。卒業生は専門知識・技術を活かした分野に進むものが多く、病院、福祉施設、給食施設などで働く管理栄養士は200名を超えています。

2004年の栄養教諭制度創設に伴い、本学も栄養教諭養成を始めましたが、31名が栄養教諭1種免許状を取得しました。フードスペシャリストの認定証は331名が、食品衛生管理者・食品衛生監視員の任用資格は260名が取得しています。

2008年から特定健診・保健指導が実施され、個人ごとの生活習慣の問題点に対し改善を支援するための知識と技術を身に付けた管理栄養士の必要性が益々叫ばれています。また、病院ではチーム医療のできる管理栄養士が求められています。

今後も教職員全員が、必要な知識と技術および豊かな人間性と高い倫理観を備え地域社会に貢献できる人材の育成を目標に努力してまいります。

## 食物栄養学科の10年を振り返って ～卒業生の声～



別府大学事務局  
教務事務部  
食物栄養科学部  
出向実験助手  
食物栄養学科第1期生  
矢野義記  
(飯塚高校出身)

私は学部生、大学院生、そして現在の仕事である実験助手とこの10年間、ずっと別府大学食物栄養科学部とともに過ごしてきました。私が在学中に一番思い出に残っているのは、自分の栄養管理です。入学当時から肥満体型の体質にコンプレックスがありました。勉強していきうちに自分で栄養管理をすれば健康的に痩せられるのではないかと気づき、授業の復習を兼ねて実践してみました。また、調理実習については、実習で作った料理をアレンジするなどして技術向上に取り組みました。その結果、体質改善と調理技術の向上につながりました。その後、私は管理栄養士の資格を取得し、大学院へ進みました。現在は、母校である別府大学で実験助手として働いています。学生時代に成功したことや、逆に失敗したことを先輩達に伝えることが出来て毎日楽しく仕事をしていました。



医療法人大場整形外科  
管理栄養士  
食物栄養学科第2期生  
喜多美沙子  
(大分県立鶴崎高校出身)

スポーツ選手のサポートがしたくて、体を作る基本となる食事についてもっと学ぼうと思いい、別府大学食物栄養学科に入学しました。大場整形外科での管理栄養士は私が初採用ということで、どのように栄養業務をやっていくのかいつも自分で決定しなければいけないのが大変なところでした。基本的には大学時代の卒業論文で取り組んだ方法と同じやり方で、成長期のスポーツ選手や高齢者の方に栄養指導を行っています。

食物栄養学科では、いろいろな資格がとれます。自分のしたいこと、やりたい仕事を考え目標を持って充実した大学生活を送って下さい。また、卒業してからも、仕事の相談を親身になって聞いてくださる先生方がいて、とても良い大学です。別府大学で管理栄養士を目指して頑張りましょう。

## 食物栄養科学部創立10周年記念事業

### 日本生物工学会九州支部主催 別府大学食物栄養科学部共催 市民フォーラム

2011年8月20日に別府大学メディアホールにて市民フォーラムを開催しました。大分は醤油、味噌、焼酎、清酒、ワインなど発酵・醸造産業が非常に盛んであるにもかかわらず、一般市民には各企業の取り組みがあまり知られていないのが現状です。本フォーラムでは県を代表する発酵食品会社等（大分醤油協業組合、三和酒類株式会社、安心院葡萄酒工房、麴屋本店）より講師をお招きし、さらに本学から林毅准教授も参加して、微生物による発酵・醸造の神秘性やものづくりの楽しさと、発酵食品の持つ機能性食品としての一面についての講演会を開催しました。多くの市民のご参加で、講演、質疑応答ともに活発で大盛況の市民フォーラムとなりました。

講演者も含めて、参加された多くの方が発酵食品の素晴らしさと奥の深さを実感されたのではないのでしょうか。



### 食物栄養科学部 創立10周年記念式典・基調講演会

食物栄養科学部は2012年に創立10周年を迎えます。この間、創立当初からの食物栄養学科に加え、平成18年には大学院修士課程（食物栄養科学研究科）及び、発酵食品学科を開設し、地域における食と健康を担う教育研究の拠点として発展を続けて参りました。本年3月に食物栄養学科は6期生、発酵食品学科は2期生が巣立ち、これまでに広く社会に貢献する約500名の人材を社会に送り出しています。

節目である10周年を記念して2012年4月22日(日)には、別府大学において創立10周年記念式典・基調講演会を執り行う予定です。これまで食物栄養科学部を支えていただいた関係各方面の方々に謝意を表すとともに、学内外に本学部の意欲を披露し、さらなる飛躍を宣誓する機会にしたいと思っております。

基調講演会は、別府大学客員教授で発酵学者・文筆家の小泉武夫先生に21世紀の「食と健康」についての講演をしていただきます。

### 食物栄養科学部 創立10周年記念シンポジウム

平成24年11月実施予定

2012年に食物栄養科学部食物栄養学科は大分県下唯一の管理栄養士養成校として発足しましたが、以来、教職員は「管理栄養士国家試験に合格する学力」と「管理栄養士として職場で実際に役立つ知識や技術」を身につけた人材を社会に送り出すことが第一の使命だと考え学生の指導にあたってきました。それに応えて毎年、ほとんどの卒業生は管理栄養士、栄養士の資格を生かした専門職の道に進んでいます。

10周年を迎えるにあたり、卒業生や学部の基礎を築き上げるためご支援いただいた大分県栄養士会をはじめとする関係各位、地域の方々に深く感謝申し上げます。記念シンポジウムでは、臨地実習施設の管理栄養士、管理栄養士として活躍している卒業生、発酵・醸造企業や食品企業で活躍する卒業生などを招き、「人々が健康に生きていく」ために食物栄養科学部が果たす役割について考えたいと思っております。

# 発酵食品学科のこれまでの歩みと今後の展望

## 東九州におけるバイオテクノロジーの教育・研究拠点を目指して



発酵食品学科  
学科長 古川謙介

わが国には国立大学を中心に農学部があり、その中に微生物の研究室は数多くありますが、別府大学の発酵食品学科は唯一の発酵・醸造に特化したユニークな学科です。本学に、食物バイオ学科が設立されたのは2006年です。大分県は山の幸、海の幸、そして発酵・醸造食品の豊富な土地柄です。このように食の豊かな東九州の地にバイオテクノロジーの拠点を形成すべく本学科ができました。2009年に名称をより身近で親しみもてる発酵食品学科へ変更しました。本学科は微生物、発酵、バイオ、食品をキーワードに教育・研究を行ってきましたが、2011年度からは二つのコース制になりました。発酵食品コースと食品流通コースです。従って、上記キーワードに食品流通が加わりました。微生物を探し、微生物を知り、微生物を学ぶことから発酵・醸造食品、食と健康、食品流通、そして環境保全の各分野へ寄

したいと考えています。

発酵食品学科ではさまざまな微生物の研究を行っています。酵母の探索・分離は“いいちご”で有名な三和酒類との4年間に渡る共同研究です。優秀な発酵能をもつ大分酵母を数株分離することができました。発酵細菌として有用なザイモナス菌を改良して高エタノール生産株を育種しました。別府の地獄温泉からは70℃以上で生育する高度好熱菌を多数取得しました。学生実験で分離した細菌はベンゼン、トルエン、フェノールなど様々な芳香族化合物を食べるスーパー微生物で、現在、この細菌のゲノム解析を行っています。これらの微生物の研究の一部は国際学術誌に発表し、特許を取得しました。

これまでに本学科の1期生と2期生が卒業しましたが、就職率は93%と好調です。主に発酵・醸造、および食品企業の技術者として活躍しています。発酵食品学科はまだ、発展途上で知名度は低いのですが、教員一同、学科の教育・研究の中身を充実させることを第一義に、真のバイオ拠点を形成したいと努力しています。

## 発酵食品学科で学んだことを活かす ～卒業生の声～



(株)ジェイエフエス  
おおいた勤務  
諫山文香  
食物バイオ学科第2期生  
(大分県立中津北高校出身)



商品開発にかかわった  
「つぶらなユス」

### 夢がかなった食品会社での商品開発

私は地元の食品会社で働きたいという思いから、別府大学の食物バイオ学科を選びました。食物バイオ学科の4年間を振り返って、バイオ学科はゆったりとしながらも理系特有の大変さもある学科だったと思います。入学当時の先生方は、おそらく1期生の先輩や私達に対してあらゆる手がかりで、試行錯誤の毎日だったのではないのでしょうか、とても大変そうでした。そうこうするうちにあっという間に4年生になり、卒業研究では食品アレルギーの原因物質についての研究を行いました。私の研究結果は先生が国際学術誌の論文にして頂き、良い思い出になりました。今年4月から地元のJAフーズおおいたに勤めています。大学で学んだ食品の知識と技術を生かし、会社では商品開発課で主に新商品開発や原材料の分析といった仕事をしています。今年から食品流通コースが設置されたそうですが、食品開発で役立つようなので学んでみたかったです。



九州工業大学大学院  
生命体工学研究科在学中  
星野倫太郎  
食物バイオ学科第2期生  
(福岡県立田川高校出身)

### 別府大で学んだ知識が大学院で生きています。

僕は入学時は就職希望でしたが、大学の卒業研究で先進的な研究を行ったことがきっかけで研究に興味をもち、大学院に進学しました。大学の4年間で学んだことを振り返った時、バイオテクノロジーと食品を中心に学んできたと思います。現在は工学系の大学院に所属していますが、バイオ学科では幅広くバイオについて学んできたので、問題なく研究を行うことができています。まだ新しい研究室に入ったばかりですが既に3つの学会に参加しました。食物バイオ学科は発酵食品学科に名称が変わりました。そのせいか新入生の雰囲気も「バイオを学びたい!」から「発酵食品を作りたい!」とシフトして雰囲気がすいぶん変わった感じがしました。でも研究に興味がある後輩たちは、是非大学院へ進学することをお勧めしたいです。研究はとても面白いですよ。発酵食品学科がこれからますます発展していくことを外から応援しています。後輩の皆さん頑張ってください。

## 発酵食品学科に期待すること ～新入生の声～



発酵食品学科 1年生  
下郡光貴  
(大分県立大分西高校出身)

### 活気と面白さで他に負けない学科に!

高校生のときは大学はとても自由だとイメージしていましたが、意外と出席が厳しかったり朝が早かったりと、ちょっと想像と違ってました。でもこのほうがしっかり勉強ができてよいかと思ってます。夏休み明けの1年生の後期からは、学生実験がスタートします。学生実験は平日のほぼ毎日午後後に開講されるとのことで大変そうですが、楽しみにしています。実験レポートが難しいと聞きましたが、私は将来食品を扱う会社で、食品の研究や品質管理などの仕事に従事したいと希望しており、学生実験はそのための大切な訓練になるとのことですから頑張りたいと思います。コースは発酵食品コースに進む予定にしています。

発酵食品学科には、大きさでは負けるかもしれませんが、それ以外の面、活気や面白さなどでは農大(東京農大)に勝るような学科になって欲しいです。私もそうなるよう、頑張っていきたいです。



発酵食品学科 1年生  
秋吉優介  
(大分県立宇佐高校出身)

### 発酵食品開発に参加したい!

発酵食品学科は入学してみるとアットホームな感じで、先生との距離も近いという印象を受けています。先生との話で、発酵食品学科は以前は食物バイオ学科という名称だったと聞きました。以前の名称だと何を勉強するのか分りにくく、卒業後の将来も見えてこないイメージです。僕は、発酵食品学科の名称がぴったりだと思います。将来はお酒を開発したり、それを販売したりする仕事に就きたいと考えています。従って食品流通コースへ進むことを考えています。現在は音楽研究部に入り新たにサクソををはじめたりして、楽しい大学生活を送っています。

日本で唯一の学科として、別府大学発酵食品学科ブランドの発酵食品をたくさん作ってほしいです。また、僕もその開発に参加したいです。

# 特集2 別府大学の就職・進路支援体制

## [1] 別府大学の就職支援の歩み

### 1 進路情報センターの活動

本学の就職支援は、従来、大学・短大の教員で構成する就職委員会及び大学事務部の就職担当部署が所轄してきました。

このような体制を更に強化するため、2001年に就職支援の責任者として、大分県立高校の校長を退職された坂本護氏を本学に招きました。坂本先生は在職中、高校生の公務員就職に力を注ぎ、県下では未曾有の実績をあげていました。坂本先生の指導の下で、放課後6時限目に開講する「公務員対策講座」、学内で開催する「合同企業説明会」、進路情報センター（後述）の「進路情報ニュース」、進路教育の専門授業「就職概論」など、新規の就職支援事業が次々に始められました。

2002年には、34号館1階に床面積375㎡の「進路情報センター」を開設し、就職活動における情報の収集・発信の中枢として位置付けました。センターは坂本先生を長として、専従の職員2名を配置し、センター内に専用のパソコン6台を設置して、学生が自由に情報収集できる環境を整えました。

このような就職支援環境の整備によって、着実に就職の実績も伸び、公務員に関して言えば、一時はおおよそ50名の1次合格者、20数名の本採用を輩出しました。また、2005年からは3年次生を対象とする「進路懇談会」を10月に開催し、各学科の教員が本学において保護者と直接面談する機会を設けました。

### 2 学生支援GPの獲得

2009年に文部科学省のGP「大学教育・学生支援推進事業【テーマB】学生支援推進プログラム」に、本学の「全学的・体系的な就職支援・キャリア教育をめざす総合対策プラン」が採択され、3年間2,850万円の補助金が支給されることになりました。同年からこの補助金を活用し、「キャリア支援講座（各種就職・免許資格取得支援講座）」、「学士力・キャリア教育向上FD研修会」、「定着指導・情報収集のための企業訪問」などの新規の事業のほか、従来実施してきた「進路懇談会」を九州各県で開催するなど継続的事业の拡大も図りました。

### 3 キャリア支援センターの開設

2009年の「リーマンショック」による不況を背景に、近年、就職状況は大変厳しい状況にあります。また大学を取り巻く環境の変化を背景に、大学における「キャリア教育」の充実が叫ばれ、2011年度から「大学設置基準」に「キャリア教育」への取り組みが盛り込まれました。

このような就職をめぐる状況の変化を受け、本学は2011年に従来の就職支援体制を大きく刷新し、その中核的機関として、従来の進路情報センターを改め、「キャリア支援センター」を開設しました。

## [2] キャリア支援センターの活動

### 1 センターの取組み

2011年度現在、本学の進路支援は、学長補佐(就職担当)を委員長とし各学科の教員およびキャリア支援課職員により構成する就職委員会を中核に進めています。また、就職委員会の活動以外に、各学科のゼミナール担当教員によって、学生の能力や適性に合わせた指導・支援が行われています。教職・司書・学芸員等免許資格に関する指導については、それぞれの免許・資格の教育課程の教員が重点的に指導しています。



キャリア支援センターのスタッフ

本年度（2011年度）開設された「キャリア支援センター」では、就職希望者に対する相談・企業受験や教職・公務員受験等の情報提供を行っています。センターは常時開放しており、1～4年生まで全学生が自由に利用できます。

学生諸君の進路先は、4年間ないし2年間の大学教育を基礎とした個々人の人格陶冶と目標に向かう努力、自己の技能、適性、学力、職業観、人生観などが統合されて決まるものです。キャリア支援センターでは、学生諸君のこのような人間力が十二分に発揮されるよう支援してまいりますので、学生諸君は大いに活用してください。



センターでの学内企業セミナーの受付風景

なお、就職委員会やキャリア支援課では、各種ガイダンス、就職適性試験や公務員・教職受験の模擬試験を適時実施していきます。また、キャリア支援センターでは、就職・進学等に関するあらゆる情報を提供していますので、積極的に活用してください。就職や進学は各自に応じた対策をできるだけ早期に講じることが肝要です。

進路等について迷っていることがあれば、気軽に相談してください。学生の皆さんのためのセンターです。気軽に訪れ、思う存分活用して欲しいと思います。

## 2 キャリア支援センター利用者の声

石松香純さん（食物栄養科学部食物栄養学科4年）

私が就職活動を始めたのは、3年の11月でした。何から手をつけて良いかわからず、とりあえず、Yahooドームで開催された就職説明会に行きました。何万人



という大学3年生も同じように就職活動を行っている現実を見て初めて焦りがでてきました。この時期から私は進路情報センター（現：キャリア支援センター）を利用するようになり、一般常識とSPIの対策講座を受けました。



福岡で就職を希望している私にとって、大分での就職活動はとてもきついものがありました。まず福岡の企業かわからないこと、説明会後の選考のスタイルもわからず、とても不安でしたが、キャリア支援センターに行くと、職員の方々が親身に相談にのってくれ、福岡の企業を載せた冊子をくれました。それを基に、就職情報サイトを利用して企業へエントリーすることができました。また、キャリア支援センターには、これまでの卒業生の方々が受験した企業のパンフレットや受験報告書などの資料が豊富にありとても役立つことを覚えています。

## 2010年度の進路状況

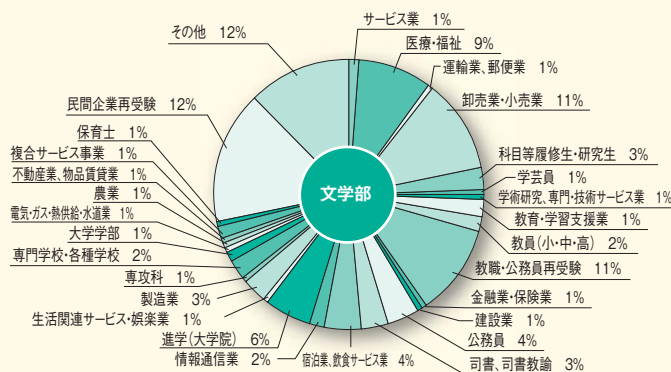
厚生労働省と文部科学省が共同で調査する『平成22年度大学等卒業者の就職状況調査』（4月1日現在の暫定値、被災地を除く）によれば、今年の春に大学を卒業した大学生（就職希望者）の就職率は91.1%と、昨年と同じ時期を0.7%下回っている。これは、「就職氷河期」と言われた平成11年度と並び過去最低の数字である。

本学の平成22年度の就職状況は、大学・文学部74%、食物栄養科学部87%、短大96%、専攻科97%であった。

本学においても、グラフが示すように、公務員、一般企業等様々な就職先を得ているが、今年度卒業予定の学生の就職活動については、震災の影響から多くの企業が面接の日程を1~2ヶ月延期するなど、さらに厳しい状況は長期化すると見られ、各教員はもちろんのこと、キャリア支援センターの機能をより一層充実させ、学生の進路支援にあたっていきたい。

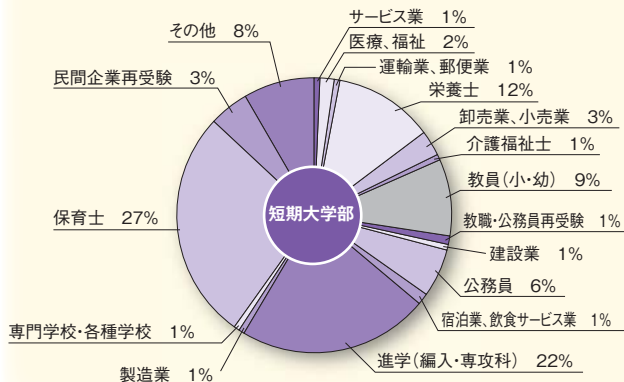
## 別府大学 2011年3月卒業生

### 文学部進路状況

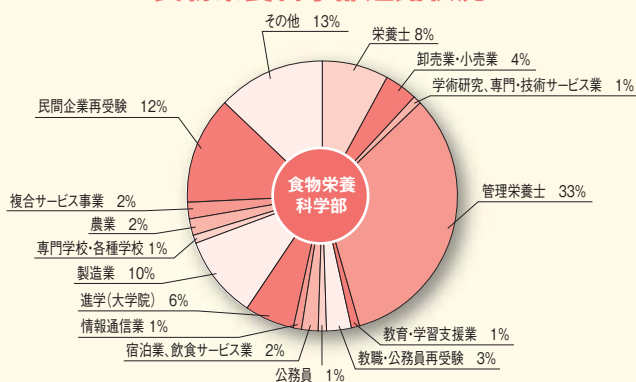


## 別府大学短期大学部 2011年3月卒業生

### 短期大学部進路状況



### 食物栄養科学部進路状況



## 文学部人間関係学科の挑戦 職業教育と高い就職率 〈国家試験対策講座と施設・病院との連携〉

人間関係学科は、2000年に創設された学科ですが、既に、大分県下の病院や社会福祉施設には多くの卒業生が働き、強いネットワークを築いています。また、心理学を学び、大学院臨床心理専攻を卒業した人々は、スクールカウンセラーとして活躍しています。

### 1 3つのコース

人間関係学科には、社会福祉コース、心理コース、教育・生涯スポーツコースの3つのコースがあります。また、取得できる資格は、職業に直結したものです。つまり、社会福祉士（国家資格）受験資格、精神保健福祉士（国家資格）受験資格、認定心理士、社会調査士、高校教員免許状（公民・福祉）などです。学科では、将来の職業を常に考えながら、取得すべき資格を中心に個別指導をしています。

### 2 国家試験対策

社会福祉士と精神保健福祉士は国家資格です。人間関係学科で所定の科目を履修すると、受験資格が与えられますが、国家試験に合格するために、3年次後期から、「福祉特別演習」という科目で受験勉強をします。4年生になると、それぞれのめざす資格に分かれ、特訓を行います。この科目を履修すると、社会福祉士コースで6割強、精神保健福祉士コースで5割の学生が現役で合格しています。

### 3 卒業生が授業

昨年度から、発展演習（2年生）、基礎演習（1年生）において、いろいろな職業分野で活躍する卒業生を招いて授業を行っています。病院で働くワーカー、不登校児の支援・教育の担当者、不動産業で企業の営業担当者、ハローワークの職員、スクールカウンセラーなど、多彩な卒業生です。自分の職業を紹介しながら、大学生の時の思い出（多くの失敗談も含め）など、学生の目線に近い講義に在生も笑いながらも真剣に聞き入っています。

### 4 社会におけるネットワーク

こうして社会の様々な分野で働く卒業生は、「卒業生ネットワーク」を結成し、母校での研究会活動なども続けています。また、春休み、夏休みに実施される実習を指導するために、教員全員が定期的に病院・施設を訪問しています。今日では、地域のソーシャル・ワーカーの皆さんと、福祉を共に支える



「仲間」として付き合っています。こうした地道なネットワークづくりが、現場に強い人材を育成する鍵だと考えています。

### 5 学校・スポーツの現場を学ぶ

教育・生涯スポーツコースの授業でも、近くの小学校に出かけ、教育支援を学生が行っています。また、「スポーツ社会学」の講義では、ソフトバンクの営業担当部長やヒートデビルズの社長が講師となり、スポーツの運営のノウハウを講義しています。常に、「現場に立つ」ことが人間関係学科の教育の柱です。

### 6 徹底した就職指導

人間関係学科では、3年次からのゼミ教育を通して、学生一人ひとりに就職支援を行っています。教員は、病院・施設だけではなく、卒業生が就職した多くの企業に対しても、職場訪問をし、その定着指導と新たな求人のお願いを継続して実施してきました。その結果、病院・施設ばかりでなく、一般企業からも高い評価を頂き、高い進路決定率を誇っています。平成20年度は92%、21年度はリーマンショックもあり厳しい就職状況の中、77%、22年度は84%と健闘しています。



# 別府大学・別府大学短期大学部の実学教育（2）

## 〈別府大学短期大学部の免許・資格教育〉

別府大学は2010年度に創立60周年を迎え、別府大学短期大学部は2014年度に60周年を迎えます。この間、両学とも「真理はわれらを自由にする」という建学の精神のもとで、「真理の探究」と「人間性の陶冶」を理念とする教育を実践してきましたが、一方で社会や地域に貢献できる人材を養成するために、免許・資格にかかる実学教育も並行して展開してきました。

別府大学短期大学部は、教員養成（幼・小）・保育士養成・栄養士養成を主目的とした3科と多様な資格取得をめざす1科、教員養成（幼・小）と介護福祉士養成を主目的とした2専攻で構成されています。このことから、実学教育には大学以上に重きを置いているといつてよいでしょう。その他、大学と共通の司書課程もおいています。今回はこのような短期大学部の免許・資格教育についてご紹介したいと思います。

### 1 教職の免許

別府大学短期大学部は1954年2月に商科・生活科の2科でスタートし、教員養成の歴史は現在の中二種免（家庭）から始まりました。1962年には初等教育科を増設し、幼二種免・小二種免、1965年には英文科で中二種免（英語）の教職免許が取得できるようになりました。1998年6月の教職免許法の改正により短大の認定専攻科でも小学校・幼稚園教諭一種免の養成ができるようになると、本学専攻科初等教育専攻は、1999年4月、短大の専攻科としては全国で最初的一种免課程に認定されました。また、2005年栄養教諭の制度ができると同時に食物栄養科では、栄養教諭二種免の養成を始めました。

現在短期大学部では、食物栄養科で中学校教諭二種免（家庭）・栄養教諭二種免、初等教育科で幼稚園教諭二種免・小学校教諭二種免、保育科で幼稚園教諭二種免、さらに専攻科初等教育専攻で幼稚園教諭一種免・小学校教諭一種免の養成を行っています。

### 2 保育士の資格

保育士の資格は、初等教育科の保育・幼稚園コースと、保育科で取得できます。初等教育科で長年蓄積した養成経験を活かし、初等教育科・保育科が一体となって、実習指導から就職情報までを共有し、2科一体となって指導にあたっています。長い養成の歴史ときめ細かな指導の結果、県内各地のほとんどの保育所・保育園で、本学の卒業生が活躍しています。

### 3 栄養士の免許

栄養士の免許は、食物栄養科で取得できます。本学の食物栄養科では、「調理のできる栄養士」の養成をキャッチフレーズに、多くの有能な栄養士を養成してきました。また実務経験を積んだ卒業生が、管理栄養士の試験を受けるに当たってのリカレント教育を継続し、卒業生から多くの管理栄養士を輩出していることも特色の一つです。

### 4 様々な資格取得をめざす科

地域総合科学科は、来年4月より、キャリア能力開発科に科名を変更する予定です。この科は、複数の資格を選択取得できるのが特色です。その主なものは、ビジネス実務士・情報処理士・観光士・訪問介護員2級・介護保健事務士等の資格取得です。また、医療管理秘書士・医事管理士・秘書・パソコン・簿記・旅行地理・TOEIC・英語等多様な検定の合格をめざす科目群も準備されています。

### 5 司書・司書教諭の資格

司書課程は大学と共通で開設されています。司書課程で学べば、司書の資格は4科とも取得可能です。また司書教諭の資格は、小・中の教職免許取得者が取得可能です。

### 6 その他の資格

食物栄養科では、フードスペシャリストの受験資格も取得できます。食の本質が「おいしさ」、「楽しさ」、「もてなし」にあることをしっかり学び（フードスペシャリスト論、フードコーディネーター論）、それを支える官能評価・鑑別論、調理学、食物学などの科目を備え、受験資格を満たすようカリキュラムが構成されています。

初等教育科では、レクリエーションインストラクターの資格も取得もできるカリキュラムを備えています。

また、専攻科福祉専攻では、介護福祉士の資格が当分の間、国家試験免除で取得できます。





大学で英語の授業を担当するオカナー先生。沖縄の戦後占領史の研究もされています。来日の経緯や英語学習のポイントなどをお聞きました。

### 生きた英語で世界を広げてください

#### — アイルランドご出身だそうですね

アイルランド南部のコーク市というところで生まれ、そこから少し離れた小さな田舎町で育ちました。人口500人の、牧草地や畑がひろがる、緑豊かな美しいところです。

#### — 大学での専攻は？

コーク大学で歴史学を専攻しました。大学では19世紀半ばのジャガイモ飢饉とアメリカ移民船の実態について研究しました。コーク市はアメリカへの移民船が出港した都市として有名です。

#### — 来日のきっかけは？

4年生のとき、大学内でJETプログラム（外国の青年を中学高校の語学指導者として招致する日本政府事業）の説明会が開かれ、自分を成長させるいい機会になると直感し志願しました。スペインへの留学やニューヨークで夏休みを過ごした経験があり、外国での生活が人生勉強になると感じていたんです。

#### — その赴任地が大分だったわけですね

ええ。豊後大野市の三重町です。それまで日本に特別な関心があったわけではなく、来日時は日本語がまったく喋れませんでした（笑）。それでも周りの方々に親切にいただいたおかげで、楽しく過ごせました。

#### — 大分の水が合ったということでしょうか

そうですね。英語を教えた中学生もみな可愛かったですし、三重町は住み心地がよかったです。アイルランドとは異なる日本の自然にも惹かれましたね。1年目の夏、はじめての盆踊り、蝉時雨、お月見…すべてが新鮮でした。結局、JETプログラムの任期後も三重町に残り、教育

委員会の囑託として小学校で英語を教えました。

#### — 別府大学の大学院に入学されたのは

三重町で5年過ごしているうちに、日本の近現代史を研究したいと考えるようになりました。小学校の先生方に相談すると、歴史学なら別府大学がいいと勧めてくれました。国費留学生にも選ばれ、幸運でした。

#### — 大学院ではどのような研究を？

沖縄返還をめぐる日米の交渉過程です。占領と祖国復帰という沖縄の歴史が、イギリスに支配されていたアイルランドの姿と重なり、関心を持ちました。博士前期課程では、表に現れにくい日米の裏交渉をテーマに論文を書き、後期課程では、公的な外交交渉過程を分析しました。現在も論文をまとめているところです。

#### — 大学では英語を教えておられます。英語学習で大切なことは何でしょうか？

黙読するだけの学習は駄目。実際に声に出して喋ることが大切です。大きな声で恥ずかしがらずに。寝る前の5分間声を出して英語を読み、それを朝起きて繰り返す。それだけで見違えるほど上達します。

そして目標設定をすることです。例えば、まず今の実力でTOEICを受けてみる。最初の点数は低くていい。しかし、次の試験で+100点、さらに次の試験で+100点を目指すというふうに目標を徐々に高めていく。目標を設定しそれを更新していくことによって、やる気が維持され、学習が続きます。

私が日本語を学習するときも日本語能力試験が大きな目標になりました。

#### — そのほかにアドバイスはありますか？

意外に聞こえるかもしれませんが、自分に自信を持つことが大事です。そして笑顔で相手の目を見、自分の意見を伝えようと努力してみる。恥ずかしがる必要はありません。異なる国の人と意思が通い合う、そのことの素晴らしさ、楽しさを感じてください。

#### — イングリッシュ・カフェをされていますね

毎月第2金曜日と第4金曜日の5限に39号館1階で開いています。今年度後期は国際経営学部の学生が対象です。

#### — 最後に学生へのメッセージを

外国語を学べば確実に世界が広がり、自分に自信がつかます。専門の学習のほかに、ぜひ外国語の学習を継続して下さい。アイルランドにも関心を持ってもらえると嬉しいです。

#### オカナー・トマース先生 プロフィール

- 別府大学文学部国際言語・文化学科 助教
- 専門は歴史学、英語教育
- 国立コーク大学（アイルランド）卒業後来日し、ALTとして三重町の中学校や小学校で教鞭をとる。別府大学大学院文学研究科歴史学専攻博士前期課程修了、同博士後期課程単位取得後退学。
- 趣味は登山、サイクリング、温泉。登山は富士山を1合目から踏破。温泉は別府八湯温泉道の2回目の名人位に挑戦中。





笑顔が印象的な杉野先生。明るいオーラを感じます。青年海外協力隊の経験や福祉への思いなどをお聞きしました。

## 心ゆくまで自分にチャレンジ！

### 一 専門は社会福祉ですね

福祉といえば、介護というイメージが強いかもしれませんが、それだけではないですね。福祉は、国籍や性別などにかかわらず、どんな人でも安心して自分らしい人生を送れる社会をめざすもの、いろいろな困難を抱える人に心から向き合い、寄り添い、その人のもつ本来の力を見つけ発揮していくことを支援していくものだと考えています。

### 一 どんな人と向き合ってきたのですか

病気や障がいがあるということで周りに理解されず悩んでいる人、経済的に苦しんでいる人、家族や家をなくして希望を失っている人・・・さまざまです。しかし、そのような方々に関わらせていただくと、それぞれに小さな力を持っていることがわかるんです。その力を感じ取れた時には、私のほうが元気をもらえ感謝したい気持ちになります。

### 一 もともとは保育士をされていたか

短大で社会福祉を専攻し保育を学び、知的障害児施設で保育士という立場で福祉に関わっていました。子どもの療育とともに、家族への相談援助などをしていました。

### 一 そのあと青年海外協力隊に参加された

施設での経験は非常に勉強になりましたが、月日が経つと新しいことに挑戦し自分を成長させたいという思いが生まれてきました。その頃、協力隊のことを知り、志願することにしました。

### 一 ヨルダンに派遣されたわけですね

首都アンマンにある特別支援学校で2年、地方の知的障害者施設で1年働きました。

海外援助という言葉には助けるというイメージがありますが、私にとっては現地で共に働き、学び助けられたというのが実感です。

### 一 ヨルダンと言えばアラブの国。言葉や生活習慣に戸惑いはありませんでしたか

職場の同僚や子どもたちに英語は通じません。片言のアラビア語で何とかコミュニケーションが取れるようになるまでに半年くらいかかりました。イスラムでは性に関するタブーがいろいろとあり驚くことが多かったですが、そのぶん女性同士のつきあいが深く、外国人の私には面白かったですね。外出時はイシャールで顔を蔽いますが、家に帰るとすぐに脱いで「暑かった」なんて笑い合う。本当は明るくオープンな人たちです。

### 一 ほか印象に残ることは?

素朴さですね。例えば、バスの中で立っている人がいると必ず「座れ」と手招きしてくれます。そうして2人掛けの座席に男性同士、女性同士が詰め合って4人掛けしたりする。困っている人がいると放っておかない。道を尋ねると知らない場所でも案内しようとする。ちょっと迷惑なときもありますが(笑)。それでもその気持ちはやはり貴重です。日本人が学ぶべきところがたくさんあると感じます。

### 一 帰国後、大学に入り直されたわけですね

ヨルダンの福祉を良くしようと意気込んで行きましたが、自分の力の無さを痛感する日々でした。それで大学で福祉を学び直し、途上国の福祉について研究もしたくて大学院に進みました。

### 一 授業で重視されていることは?

学科の学生全員が福祉の専門職を目指しているわけではありません。でも、授業を通じて全員に福祉マインドを身につけて欲しいと願っています。そのためにも身近な生活問題を取り上げながら、学生が参加する授業、興味をひく授業をするように心がけています。

### 一 ところで笑い療法士3級だそうですね

病気で苦しんでいる人や落ち込んでいる人に、せめて笑いだけでも提供できたらと思って。笑いは健康にいいですから。でもまだ3級で、すべてばかりです(笑)。

### 一 学生にメッセージをお願いします

自分の信じたことにチャレンジして下さい。私自身は協力隊に入ったときに「2年後の自分に会いたい」という思いがありました。目標と情熱があれば人間は必ず成長します。皆さんも将来のすてきな自分に出会うために今を前向きに生きてください。

### 杉野寿子先生 プロフィール

- 別府大学短期大学部地域総合科学科 准教授
- 専門は社会福祉。社会福祉士・精神保健福祉士・介護福祉士・保育士
- 大分大学大学院福祉社会科学部 修士課程修了。
- 県内の知的障害児施設、特別養護老人ホームなどに勤務。JICAの青年海外協力隊に参加しヨルダンの福祉施設で3年間勤務。アメリカの日本語補習校で障害児クラス担当の経験も。
- ヨルダンでも猫を飼うほどの猫好き。愛猫の名前はシャラ。そのほか趣味は旅行、ヨガ、バドミントン、温泉など。



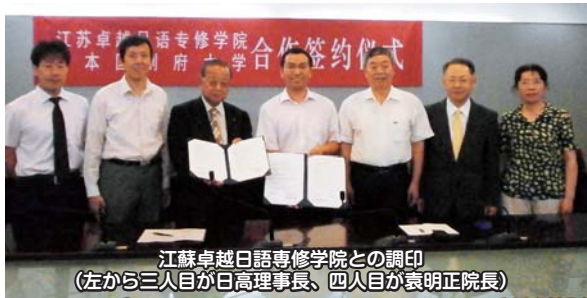
ヨルダンの子どもたちと

## 中国の武漢商業服務学院及び江蘇卓越日語専修学院との交流協定締結

この度（2011年）、別府大学と別府大学短期大学部は中国・武漢市の武漢商業服務学院（6月30日）及び南京市の江蘇卓越日語専修学院（7月1日）と交流協定を締結しました。今回は日高紘一郎理事長が直ぐに中国を訪問し、両学院と協定書を交わしました。

武漢商業服務学院は1963年創立された武漢市立の短期大学で、学生数約7,000名、8学科15コースを擁しており、今後、本学の国際言語・文化学科（マンガ・アニメコース）・国際経営学科との交流が期待されます。

江蘇卓越日語専修学院は江蘇省教育庁の外郭団体「江蘇卓越国際交流教育基金会」と「南通明正外国語専修学校」の出資により、2010年に設立された学院です。当学院は、江蘇省教育庁の認可と支援のもとに運営される国際交流と留学支援のための機関で、江蘇省で唯一の日本語専修学院です。理事長は「江蘇卓越国際交流教育基金会」の王斌泰理事長（前江蘇省教育庁長）が兼務されています。当学院は江蘇省内の6主要都市の進学高校に、当学院と共同管理の「日本語コース実験クラス」という新しい形のクラスを開設し、卒業後、直接日本の大学の四年制学部へ留学させることを目指しています。今後、本学の各学部への進学が期待されます。



江蘇卓越日語専修学院との調印  
(左から三人目が日高理事長、四人目が袁明正院長)

## 韓国大邱科学大学と別府大学短期大学部の遠隔交流講義を実施

別府大学短期大学部では、初等教育科の韓国語の講義を利用して、2009年度10月より大韓民国大邱科学大学とインターネット回線を利用した映像送受信による交流講義を開始しました。2009年度の遠隔交流講義の実績より、2010年度からは大邱科学大学に遠隔講義教室が整備され、本格的なビデオ会議システムを導入した遠隔交流講義が実施されています。

交流講義では日本語、韓国語による自己紹介や学校生活の紹介、そして第二回となる遠隔交流授業スピーチコンテストが行われ、別府大学より7名、大邱科学大学より5名の学生が、金子進之助、金碩鐘両学長はじめ学生たちの前でスピーチを行いました。相互の投票の結果、初等教育科1年生の吉田沙耶香さん（現2年）、大邱科学大学の김정연（キム・ジョンヨン）さんがそれぞれの学校的最優秀賞を受賞しました。両校の学生たちが互いの文化にさらに興味を深め、学習を継続していく動機付けとなることが期待されます。



メディアホールにおける遠隔授業の様子

## 夏季国際セミナーにロシアの学生が参加

本年度（2011年）も夏季国際セミナーが開催され、ロシア・韓国・台湾から9校、106名の教員・学生が参加しました。7月20日（水）に3週間コース、27日（水）に2週間コースの開講式が行われ、参加者は日本情緒あふれる温泉旅館に宿泊しながら、日本語や華道・茶道などの日本の伝統文化を学びました。

セミナーは今回で37回を数えますが、このたびは初めてロシアから参加者があり、ロシア国立高等経済学院大学日本語学科のボボルイーキナ・エカテリーナ先生と学生10名が、3週間コースを体験しました。温泉旅館での宿泊や華道やゆかたの試着などの異文化体験に大変満足していました。ロシアの皆さんは期間中に竹田市とも交流を行いました。

8月5日（金）にセミナーの修了式が行われ、本学の豊田寛三学長が参加者に修了証書を手渡し、皆さんの努力をねぎらいました。猛暑の中でのセミナーでしたが、参加者からは「時間が短すぎて残念。もっと別府にいたい」という声も多く聞かれ、実施したアンケートにおいても、95%の学生が満足したという結果が出ていました。また、期間中、本学短期大学部の食物栄養科・初等教育科や学生サークル「国際交流部」との交歓会も行われました。

⑥はじめて華道を体験するロシアの学生たち

⑦豊田学長から感謝状を受ける引率のエカテリーナ先生



## スポーツ振興会・文化会の活動

陸上部 山田 大倉 (文学部 史学・文化財学科 3年)

別府大学スポーツ振興会は、今年35年目を迎え、体育系の21サークルを擁しています。

私が所属する陸上部では週4日の練習を行っており、日々大会に向けてベストの走りができるように汗を流しています。陸上部の中には、大会に出場することが目的ではなく、大学生活での運動不足を解消したいという部員もいます。そのような部員にも合った練習メニューを考えて、多くの部員が充実したサークル活動を行えるように心がけています。

陸上部ではボランティア活動にも積極的に参加しています。また、スポーツ振興会が主催して行うフレッシュマンキャンプやリーダーズトレーニングの研修旅行にも参加し、他サークルとの交友関係を広げています。



演劇部 齋藤 公希 (文学部 史学・文化財学科 3年)

別府大学文化会は文化系サークル 19 団体から構成されています。

私が所属している演劇部では、年に3回の公演やサークル内でのイベントを通して、部員の絆を深めています。このほか「ざつき祭」や新入生歓迎公演をはじめとして、1年生のみで行う顔見せ公演や、今年で28回目を迎える定期公演会など、一年間を通して演劇に力を入れています。また、春と夏に行うキャンプや、防犯パトロールなどのボランティア活動にも積極的に参加しています。



## 別大BBS会10周年

別府BBS会会長 真部 愛美 (人間関係学科 2年)

別府BBS会は、文学部人間関係学科の学生で構成されたボランティアサークルです。今年で10周年を迎え、現在、会員39名で楽しく活動を行っています。

日常的な活動としては、地域の小学生を対象とした寺子屋活動、児童養護施設学習指導活動、不登校児支援スポーツ指導員活動の3つを定期事業として行っています。また、定期事業以外にも様々な活動に参加しており、多くの会員が意欲的に色々なボランティアに取り組んでいます。

毎週1回開かれる例会では、参加したボランティアの報告やボランティアの募集などが行われており、会員のボランティアへの参加意欲を高める場となっています。また、例会は、日頃接する機会の少ない学年が、違う会員と互いに交流する場にもなっており、毎回、会話がはずんでいます。

今後も積極的にボランティアに参加し、様々なことを経験することで、会員1人1人の成長につなげていきたいと思っています。



## 模擬授業の会について

第5期模擬授業の会代表 甲斐浩志郎 (文学部 史学科 4年)

本会は、2007年度に教職課程を履修していた有志により発足され、2011年度で第5期を迎えています。教職課程の教員のバックアップにより運営されています。

主な活動は、教職をめざす学生に授業実践の場を提供することです。この場は開放されており、授業観察の場と捉えて参加する学生もいます。本会は、教職課程履修者全員を視野に入れた授業実践力の向上を目指しており、特に教育実習を終えた4年生による模擬授業の実施は、教育実習が予定されている後輩達にとって「教育現場」の実状を知る良い機会となっています。

模擬授業の実施者は、学習指導案作成や板書計画などを本会のメンバーと相談しながら決めて授業に臨みます。こうした取り組みにより、同輩間や先輩・後輩間で授業実践に関する良い学び合いが醸成されつつあります。

現在、本会OB・OGの多くが卒業後「現場」で臨時的任用講師として働いています。教員採用選考試験を突破した者も現れ始めたところです。



模擬授業の会の授業風景

## 書道研究室の活動

書道研究室 岡 美里 (国文学科 4年)

書道研究室では、荒金信治教授の指導のもと、「高等学校の書道教員になる」という夢に向かって、1年生から4年生まで計12名が活動しています。

研究室では「書の古典」を学ぶことを基本に、書道が好きな仲間が日々切磋琢磨しています。日頃の研鑽が実って、展覧会では多数の入選・入賞者が出ています。また、1年次より、それぞれのテーマに沿って研究を積み重ね、4年次の卒業論文に発展させています。毎年11月の学園祭では、書の古典を生かした「書道パフォーマンス」を行っています。下の写真がそれです。

更に、学外の活動としては、永年、児童施設「平和園」で子供たちに書道を教えている荒金先生のもとで、ボランティアに取り組むとともに、子供たちへの書道支援の方法を学んでいます。また、研修旅行で中国へ行き、教室で学んだ「書」の実物を、現地で実見する学習も行っています。

学内外での学びを通し、筆を持つ喜びを感じ、「書」を学べる環境に感謝しながら、「教員になる」という夢を実現するため、大学の4年間を大切に日々頑張っています。



# がんばってます留学生

## 「田植え」に挑戦

2011年6月12日(日)に大学コンソーシアムおおいたの主催で、「あさじで田植え(rice planting)をしよう プログラム」が開催されました。定員は20名と数に限りがあるなか、本学から数名の留学生が参加しました。田植え作業に興味を持った学生なら誰でも参加できることもあって、今回の参加となりました。

当日は雨が降る中、地元農家の方々から指導を受けながら、楽しく田植えをおこないました。途中から、豪雨になり、作業は中止となりましたが、その後の交流会で、地元の方々とお話しながら、炊き出しをいただいたり、他大学の学生と仲良くなったりと、日本の農作業を学びつつ、その他にもいろいろな体験ができたようです。雨が降ったことが、かえってよい経験になったのではないかと思います。



④雨の中で田植えを楽しむ留学生



⑤地元の方の炊き出しに舌つみを打ちました。

## 「留学生交流会(別府法人会主催)」に参加

2011年7月6日、(社)別府法人会主催の留学生交流会に本学の学生が今年も招待されました。会場はヒットパレードクラブで、約40名の学生が出席し、県内の留学生達との交流を楽しみました。

この交流会は、母国を離れて勉学に励んでいる学生たちに、少しでも日本での楽しい思い出をつくってもらいたいという思いから毎年開催され、本学の学生も招待を受けています。

学生たちははじめ緊張していましたが、時間が経つにつれて、緊張もほぐれ周りとも打ち解けていたようです。同郷の学生や、同じ国から来た学生同士で仲良くなるなど、学生にとってとても有意義な時間になったように思います。



ステージで挨拶する本学留学生(中央の3名)  
(金昭熙、呉鑫、王澤芳)

## 平成23年度短期留学生修了式

8月8日に2011年度前期の短期留学生の修了式が行われました。約20名の短期留学生が修了を迎え、別府大学本館の520会議室にて式が行われました。それぞれ学生は緊張した面持ちで式に臨みました。

文学部・短期大学部に所属していた学生がそれぞれ代表で挨拶をおこないましたが、短期大学部所属の趙(チョウ)アラさんはこれまでに経験したこと、本学で学んだこと、感じたことを担当の先生方や、授業でお世話になった先生方へ熱く語っていました。それぞれの学生は半年ないし、1年間という期間で、とてもよい経験ができたことだと思っています。



⑥謝辞を述べる金禮媛さん



修了生と大学関係者

## 「国際交流ゆかたの夕べ」に参加

2011年9月16日夕方より、9回目になる国際交流ゆかたの夕べが開催されました。ゆかた姿の留学生、日本人学生、附属幼稚園児、地元の方々など約350人が踊りの輪を広げました。

台風の影響で、あいにくの雨となりました。体育館へ会場を変更行われました。主催者を代表し、豊田学長は、「踊りを通じて留学生は、日本文化に触れ、地域・また日本の学生とも交流を深めてほしい」と挨拶を行いました。

踊りは、最初は気恥ずかしさや不慣れさで、ごちなく感じられましたが、時間がたつにしたがって全員楽しむことができたと思います。体育館の中ではありましたが、わた菓子やかき氷などの屋台が設けられ、会場は大いに盛り上がりみせ、大変有意義なひとときを過ごすことができました。参加した留学生も、楽しくて来年も参加したいという感想を述べていました。



⑦ゆかたがよく似合う留学生たち



## 快挙!! なぎなた部が演技の部で 全国優勝、個人の部で準優勝

学園

2011年8月7日(日)、福井県立武道館で開催された「第50回全日本学生なぎなた選手権大会」において、本学なぎなた部の下部綾子さん(初等教育科)・城間さやかさん(地域総合科学科)組が、演技の部でみごと優勝しました。また、個人の部でも城間さやかさんが準優勝しました。皆さん大変おめでとうございます。

今回、なぎなた部は主将の国宗浩子さんが唯一人の2年生(短期大学部初等教育科)で、他は短期大学の1年生という「若いチーム」で臨みましたが、大学3・4年生を相手の堂々とした試合ぶりで、この度の好成績を成し遂げました。なぎなた部としては、昨年の全国3連覇・団体優勝に続く快挙です。

団体の部では、経験不足をつかれて2回戦で鹿屋体育大学に惜敗し、4連覇を逃しましたが、来年度に向けて期待を抱かせる試合内容でした。部員の皆さんは来年度こそは演技の部、個人の部、団体の部の三冠を手中にしようと、9月より新体制で練習を再開するとのことでした。



全日本大会で優勝・準優勝した城間さん(右)と下部さん(左)

## 明豊高等学校野球部 甲子園ベスト16 ～2年ぶり4回目の夏の甲子園出場を決める～

学園

このたび明豊高等学校野球部が第93回全国高等学校野球選手権大会(2011年)で2年ぶり4回目の甲子園出場を果たしました。

悲願でありました夏の甲子園大会に出場し、ベスト16の戦績を残して終わることができました。初戦の東京都市大学塩尻高校(長野県代表)戦では、「大会タイ記録の1イニング3回(3者)の三塁打」、「先発全員安打」という活躍を見せ、勝利をおさめることができました。また、3回戦の関西高校(岡山県代表)戦では、「兄弟揃っての出場」、「大会10年ぶり7回目の三重殺」という見せ場もありましたが、惜しくも敗退しました。このような手に汗握る対戦に多くの皆様から激励と感動のお言葉をいただきました。

選手は憧れの聖地甲子園球場の大観衆の中、別府大学吹奏楽団と明豊高校吹奏楽部の合同演奏応援や生徒、卒業生、野球部OB、保護者などの声援を背にして、日頃の練習の成果をいかに発揮することができました。今大会で流した汗と涙は、選手のみならず球場や学校で声援した全校生徒の胸に伝わる感動の絆として、今後の学校生活に必ずや生かされるものと確信しています。

今後の高校野球部のさらなる活躍にも期待がもたれます。



夏の県大会に優勝して凱旋する野球部

## 現役生、卒業生、教員が絵画展で活躍

大学

今年(2011年)、本学の学生・教員が各種絵画展で数多く受賞あるいは入選しました。4月から6月にかけて開催された油絵の代表的な展覧会「春陽展」では、今年卒業した安部沙保里さん(現研究生)や田口玲子さん、緒方亜希子さん、田幸千恵子さんなどの卒業生、および研究生の青木智華子さん、大田黒翔代さん、敷島唯さんが入選しました。また、芸術文化学科の卒業生で、本学で教鞭をとる短大初等教育科助教の有吉宏朗さんが「中川一政賞」、国際言語・文化学科の非常勤講師川野美華さんが「奨励賞」(2年連続)を、それぞれを受賞しました。日本近代洋画を牽引した青木繁にちなむ「青木繁記念大賞西日本美術展」では、上述の敷島唯さんが入選し、公立田川美術館が九州・山口地区の若手芸術家の発掘やベテランの顕彰を目的に開催されている「英展」では、上述の有吉宏朗助教が佳作賞を受賞しました。また、「英展」には卒業生の荻田美穂さんも推薦出品しました。皆さん方のますますのご活躍を期待いたします。

なお、本号の表紙絵は「青木繁記念大賞西日本美術展」に入選した敷島唯さんの作品「雨上がりに満ちる」です。



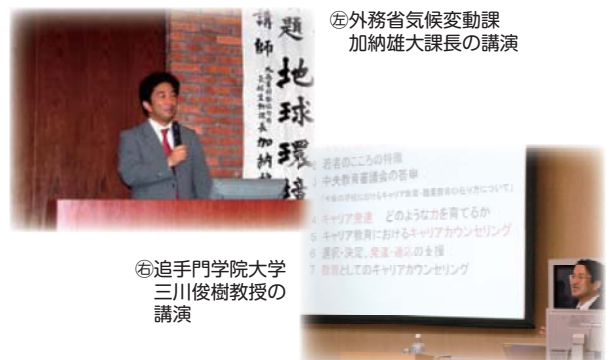
大田黒翔代さん(研究生)「朝霧を吸い込む」

## 外部講師による講演会・研修会の開催

大学

本学は教職員の研修を目的に、外部講師による講演会・研修会を積極的に進めています。2011年6月6日(月)、本学別府キャンパスにおいて、外務省国際協力局の加納雄大気候変動課長による「外交講座-地球環境-」を開催しました。加納課長は地球温暖化防止を目的とする気候変動交渉の最前線で活躍されており、昨年メキシコのカンクンで行われたCOP16(気候変動枠組み条約第16回締約国会議)などを例に、環境政策をめぐる各国の立場や国際交渉のエピソードなどを紹介しながら、臨場感にあふれた話をしていただきました。

7月20日(水)には、第1回「学士力・キャリア教育向上FD研修会」をメディア教育・研究センターにおいて開催しました。この研修会は、教職員の就職支援とキャリア教育についての意識向上をはかることを目的に開催しており、今回は追手門学院大学心理学部の三川俊樹教授に「大学におけるキャリア教育とは」というテーマで講演していただきました。学生の就職状況が大変厳しい折から、参加した教職員から「未就職のまま卒業していく学生をいかに減らしていくか、そのために大学がどのような支援をすればよいのかについて具体的な方策を考える手立てとなった」といった声が聞かれ、大変有意義な研修会となりました。



④外務省気候変動課  
加納雄大課長の講演

⑤追手門学院大学  
三川俊樹教授の  
講演

## 短期大学部地域総合科学科が高校生対象の「キャリアセミナー」を開催

短大

2011年9月11日(日)、短期大学部の地域総合科学科が高校生を対象とした「キャリアセミナー」を開催しました。次年度から「キャリア能力開発科」と名称変更を予定している本科が、今後より一層、取り組んでいきたい地域社会と連携した参加型・体験型学習を、高校生に「現場」で実体験していただくことを目的としたものです。

大分キャンパスで本科のカリキュラム紹介などを含めたガイダンスのあと、高崎山へ。車中では在学生による「高崎山クイズ」を行いながら楽しく移動。高崎山では、研修室にて、職員の方による、高崎山の仕事内容や、本科学生の体験学習の紹介などを含む講演、本科在学生の高崎山でのボランティア体験談を聞きました。そして、園内で働く職員さんの仕事振りを見学し、おさるさんの観察をしました。

当日はお天気にも恵まれ、参加者のみなさんは、時折おさるさんの様子に笑い転げながら、高崎山の良さを満喫し、楽しく体験学習できたようです。



「高崎山」の職員の説明を受ける高校生

## 災害派遣医療チーム「大分DMAT」の隊員養成研修会に参加

附属看護

2011年6月25日、26日の両日、災害派遣医療チーム「大分DMAT」の隊員養成研修会が県庁でありました。本校1年生は、「災害看護」の授業の一環として2日目の地震災害を想定した実施シミュレーションに模擬患者役で参加しました。4年目の今年は応募者が募集定員を大幅に上回り、東日本大震災を受けて災害医療への関心が高まっていることがうかがえました。参加学生は、津波被害や広域災害など震災の経験を踏まえた対応策を学び、授業で学習したトリアージの流れを実践しながらに体験し、負傷者を前に知識と経験の豊富さだけでなく、冷静な判断の必要性を実感することができました。

今回の模擬患者体験を通して災害現場で一人でも多くの負傷者を助けたい、「実習で出会う患者様に対し社会復帰の手助けが少しでも出来るようになりたい」将来は災害現場で活躍できる看護師になりたい。等の感想に、目標とする看護師に向かって学習意欲がより向上することが期待されます。



「災害看護」の実習授業の様子

## 附属幼稚園年長児の「こどもキャンプ」(1泊2日)

附属幼稚園

幼稚園の森で始めたキャンプも湯布院の「山荘四季」で行うようになって、今年は33回目です。年長児担任が、その年ならではのキャンプを構想し、それを踏まえて全教師が各グループに入り、子ども達と共に活動します。学生にも裏方の仕事を手伝ってもらっています。

本年度(2011年)は「さらさら子どもキャンプ～願い星に会いにいこう～」の企画で、7月22日、23日に行いました。由布院駅の近くから、お弁当時間も含め「山荘」まで2時間半ほどを夏の様々な自然に触れながら歩き、山荘でも急な坂の斜面や山道、油断できない沢などを探検。暗闇やキャンプファイア、ドラム缶風呂や食事、宿泊など、貴重な経験をしました。

身体を動かし、智慧を出し、友達と心も力も合わせながら、楽しんで困難を乗り越えて行ったりする姿に「たくましさ」や「科学する心」の育ちを感じ、心強く思っています。



園児たちが湯布院駅から「山荘」まで歩きました

## 別府大学同窓会 新会長を選出

同窓会

2011年8月20日、別府大学同窓会評議員会懇親会が開催されました。今年度は役員改選の年であり、別府大学3号館ホールで行われた評議員会では新役員が発表され、満場一致で承認されました。また、永年に亘り別府大学同窓会会長としてご審判頂いた坂本義明会長が退任され、金田信子副会長が新会長として選出されました。ホテルサンバリーで行われた懇親会では坂本義明会長のセレモニーが行われ、新会長から感謝状が手渡されました。坂本会長は6年に渡り同窓会の発展に多大なる貢献をされました。坂本会長の意思を受け継ぎ、新会長のもと引き続き同窓会の発展、別府大学の発展に寄与すべく一同努力してまいります。



金田新会長が坂本会長に感謝状を授与

# 新任者紹介

① 所属 ② 専門分野 ③ 出身校 ④ 別府大学の学生に一言

## 瓜生 清 (ウリュウ キヨシ)



- ① 教授 文学部 国際言語・文化学科
- ② 日本近代文学
- ③ 九州大学大学院
- ④ 現在の気持ちは、研究・教育の両面において、心機一転という思いです。近代文学の面白さと奥の深さについて、学生の皆さんと共に研鑽していきたいと思っています。学生生活の四年間は、何か纏ったことをし遂げようとする、意外に短いものです。将来を見据えた学生生活になることを期待しています。

## 岡本 哲明 (オカモト テツアキ)



- ① 教授 食物栄養科学部 食物栄養学科
- ② オーストラリア地域研究、実用英語、資格英語、特に TOEIC
- ③ 上智大学外国語学部英語学科  
東京外国語大学大学院地域文化研究科
- ④ 素晴らしい環境の本学に来られ大変幸せです。就職に強い英語の資格を目指し、一緒にがんばりましょう。英語の資格のことならなんでもご相談下さい。

## 大坪 素秋 (オオツボ モトアキ)



- ① 教授 食物栄養科学部 発酵食品学科
- ② 分子生物学
- ③ 九州大学大学院医学研究科分子生命科学専攻
- ④ 大学生活は皆さんの世界を確実に広げます。努力して自分の世界を広げて大切なものを見つけて下さい。

## 仙波 和代 (センバ カズヨ)



- ① 准教授 食物栄養科学部 食物栄養学科
- ② 生化学 (免疫生化学)
- ③ 鹿児島大学大学院歯学研究所
- ④ 人生、自分の夢を実現させて欲しいです。現在夢のない人は、自分が将来やりたいことややりたい人物像を是非とも考えてみてください。夢があつてこそ、目標がたち、自分の人生を自分で切り開いていけるようになります。学生時代は人生で一番楽しく、そして貴重な時期です。だからだと無駄に使うことなく、生き生きと充実した日々を送って欲しいです。

## Tomás O'Connor (オカナ・トマス)



- ① 助教 文学部 国際言語・文化学科
- ② 実用英語
- ③ University College Cork  
別府大学大学院文学研究科歴史学専攻博士後期課程
- ④ University is the place where one discovers both what he is and who he wants to be. Having myself had the privilege of studying at Beppu University for some years, I encourage students to pursue a fulfilling and rewarding college life by availing of all the opportunities and possibilities they are presented with.

## 長谷 真 (ハセ マコト)



- ① 准教授 短期大学部 食物栄養科
- ② 細胞生物学
- ③ 名古屋大学大学院 理学研究科 博士課程後期
- ④ 色々な事に興味を持って大いに学んで下さい。後悔のない学生生活を送って下さい。

## 古木 美香 (フルキ ミカ)



- ① 講師 短期大学部 食物栄養科
- ② 臨床栄養学
- ③ 川崎医療福祉大学大学院医療技術学研究所臨床栄養学専攻
- ④ 生きる力である「食」を通して、多くの人とふれ合い、多くのことを学んで下さい。この恵まれた環境の中で、興味のあることには積極的に挑戦し、ともに充実した毎日をご過ごしましょう。

## 飯田 法子 (イイダ ノリコ)



- ① 講師 短期大学部 保育科
- ② 臨床心理学
- ③ 大分大学大学院教育学研究科修士課程修了
- ④ 大学は「自分探し」を手助けしてくれる場です。助けを待つだけでなく、自ら積極的に求めてみましょう。大学生活のあちこちで、「宝探し」にも似た自分探しのヒントが見つかるはずです。

## 大畑 満里子 (オオハタ マリコ)



- ① 大学事務局 教務課 食物栄養学科出向実験助手
- ③ 別府大学食物栄養科学部食物栄養学科
- ④ たくさん遊び、たくさん学び、充実した学生生活を送ってください。

## 榎 未央 (エノキ ミオ)



- ① 大学事務局 教務課 短期大学部 食物栄養科 出向実験助手
- ③ 別府大学短期大学部食物栄養科
- ④ たくさんの人との出会いや経験を大切に、多くのことを学んで、楽しい大学生活にしてください。

## 二宮 孝富 (ニノミヤ タカトミ)



- ① 教授 文学部 人間関係学科
- ② 法律学
- ③ 九州大学大学院法学研究科博士課程
- ④ 大学生活の時期は、人生にとってかけがえのない大事なときです。貪欲にいろんなことにチャレンジして、自分の道を見つけて下さい。

## 岡本 啓湖 (オカモト ケイコ)



- ① 教授 食物栄養科学部 発酵食品学科
- ② 醸造微生物学・土壌微生物学
- ③ 九州大学大学院農学研究科農芸化学専攻博士課程修了
- ④ 微生物を用いた発酵食品 (酒、みそ、醤油、チーズ、ヨーグルト、漬物、納豆など) が溢れています。特に日本人の食卓は微生物の恩恵に大いにあずかっています。また、微生物は機能性食品開発に用いられるだけではなく、環境修復 (バイオレメディエーション)、ゼロエミッション、バイオアルコール研究などに適用され、地球環境を救う無限の力を秘めています。微生物食品製造学に関する講義や実験を通じて、微生物の潜在能力を一緒に確かめていきましょう。

## 佐藤 敬子 (サトウ ケイコ)



- ① 准教授 文学部 教職課程
- ② キャリア教育・コーチング・コミュニケーション・生徒指導
- ③ 横浜国立大学教育学部
- ④ 「なりたい自分」になるために、どんな力を身につければ良いでしょう。すてきな社会人となるために「乗り越える力」(レジリエンス能力) をたっぷり蓄えて下さい。

## 陳 欣 竹 (チェン シン チュン)



- ① 講師 文学部 国際言語・文化学科
- ② 中国語
- ③ 台湾大学
- ④ 中国語の勉強はむづかしいですがおもしろいです。一緒に頑張りましょう！

## 日和 恭世 (ヒヨリ ヤスヨ)



- ① 助教 文学部 人間関係学科
- ② 社会福祉学
- ③ 大分大学大学院福祉社会科学研究所
- ④ “生きる力”を養うために、1日1日を大切に、より多くのことにチャレンジしましょう。

## 西村 慶治 (ニシムラ ヨシハル)



- ① 准教授 短期大学部 地域総合科学科
- ② キャリア支援・人間関係論
- ③ 大分大学大学院経済学研究所博士前期課程修了
- ④ 私のライフワークは、「『夢』のある元氣な未来創りのお手伝い」です。さまざまな可能性を秘めた学生のみなさん一人ひとりの持ち味と一緒に見つけ、ともに伸ばしていくことを、楽しみにしています！

## 池口 功晃 (イケグチ タカアキ)



- ① 講師 短期大学部 地域総合科学科
- ② 観光地理学
- ③ 慶応義塾大学商学部、久留米大学大学院比較文化研究科
- ④ 大学・短期大学における学習は、高校までのそれとは違い「自ら課題・問題を発見・思考し解決に結びつける力」を養うことにあります。「考える力」=「生きる力」です。観光というフィールドを土台に沢山の事を学びましょう。

## 尾上 ひとみ (オノウエ ヒトミ)



- ① 大学事務局 教務課 食物栄養学科出向実験助手
- ③ 別府大学食物栄養科学部食物栄養学科
- ④ 様々な事にチャレンジをして充実した学生生活を送ってください。

## 森田 孝行 (モリタ タカユキ)



- ① 大学事務局 教務課 短期大学部 食物栄養科 出向実験助手
- ③ 別府大学食物栄養科学部 食物栄養学科
- ④ 別府大学に入学し、良かったと思えるような充実した学生生活を送ってください。

## 泉 江莉 (イズミ エリ)



- ① 大学事務局 附属図書館
- ③ 別府大学文学部文化財学科
- ④ 大学生は、自分のための時間が一番とれる時期です。興味のある事に全力で取り組んで下さい。

## I 経営基盤の強化

### 1. 中長期的な経営戦略への取組

経済情勢をはじめ私学を取り巻く環境が極めて厳しい状況の中で、本学校法人が最も重要視している教育研究活動や社会貢献活動を持続的に発展・強化させるためには、強い危機意識を持ちつつ、目指すべき将来像の実現に向けた中長期的な経営戦略を明確にし、それに基づく教育研究や法人運営を推進するとともに、地域社会との連携強化などを図っていくことが重要です。

このため、平成 22 年度においては、本学校法人の中長期的な経営戦略である中期計画を策定するため、中期計画検討会議を立ち上げ、現下の高等教育政策の動向や経済情勢など私学を取り巻く諸状況の中でより実効性のある学校法人別府大学中期計画の策定に向けた検討を進めました。

### 2. 財政基盤の強化

健全な財務体質を維持する透明性の高い財務システムを構築するなど、より安定した財政基盤を確立するため、第 4 次中期財務計画を検討し、平成 23 年 4 月にスタートさせました。また、平成 21 年度の取組を踏まえた重点施策事項を見据えつつ、教育研究施設設備の充実、学生募集活動や広報活動の充実・強化及び寄附募集活動や情報公開の推進を図るとともに、II の事業の概要に記述する教育研究活動や社会貢献活動を発展・強化するための主要事業を推進しました。

## II 事業の概要

### 1. 大学・短期大学部

#### (1) 大学改革の推進

(大学部門)

- ① 文学部の入学定員の見直しを行い、平成 23 年度から国際言語・文化学科を 170 名から 120 名に、史学・文化財学科を 160 名から 120 名にそれぞれ変更することとしました。
- ② アドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー及びディプロマ・ポリシーを定め、各学部・学科の学生受入れ、カリキュラムの編成及び学位授与に関する方針をそれぞれ明らかにし、これらをホームページで公表しました。
- ③ 学科における履修コースの設置、履修方法、卒業要件等を定めるため、各学部の学科に置く履修コースに関する規程を整備しました。
- ④ きめ細かな履修指導や学習支援の実施、学習成果の効果的な達成を促す一助とするため、学業評価指数（GPA）制度を導入しました。
- ⑤ 授業科目等に関する学生の質問・相談に応じる時間として、授業時間とは別に各教員があらかじめ示す特定の時間帯を設置し、学生が予約なしで研究室を訪問することができるオフィスアワー制度を導入しました。また、ホームページで公表している「研究者総覧」でこの時間帯を情報提供するとともに、各研究室のドアにオフィスアワーの時間帯を明示し、きめ細かな指導ができるよう措置しました。
- ⑥ 職務発明規程、発明委員会規程、知的財産ポリシー、産学官連携ポリシー、利益相反ポリシー及び利益相反に関する規程等の知的財産関連の取扱ルールなどを定めました。
- ⑦ 別府大学同窓会と意見交換会を実施するとともに、同窓会が大学祭の際に実施するホームカミングデーに講師として学長等が出席するなど同窓会との連携強化に取り組みました。
- ⑧ 本学が有する人的・物的・学術的な資源を地域のニーズに応じて提供し、地域の学術・文化・生涯学習の発展に寄与するなど積極的に地域貢献に取組むため、「別府大学・別府大学短期大学部地域貢献の方針」を定めました。
- ⑨ 学生生活の充実のために学生個人の成績チェック等を通して教員による学修指導を徹底するとともに、平素からの学生相談指導の内容を記録した退学・休学等相談カルテを作成し、中途退学等の防止対策に資することとしました。

(短期大学部門)

入学定員の見直しを行い、平成 22 年度から地域総合学科を 140 名から 100 名に、保育科を 80 名から 60 名にそれぞれ変更しました。

また、平成 22 年度においては、学生定員の確保、進路・就職対策及び修学指導の充実、中途退学者の防止対策及び学士力の向上を目指し、引き続き特色ある魅力的な短期大学部の構築を図るため、前述した大学の改善改革の内容と同様に改善改革を行いました。

#### (2) 教育研究活動の推進

(大学・短期大学部門)

##### 1) 教育研究活動の充実・強化

- ① 平成 19 年度に学内の教育研究分野の知を結集し、地域の特性を活かした「温泉学の構築」を研究テーマとした研究会を立ち上げ、これを核としながら外部資金の獲得に努めるとともに、平成 21 年度から教養科目群の学際科目として「温泉学概論」を開講し、平成 22 年度には、その成果の一部をフォーラム「別府診断」で発表しました。
- ② 平成 20 年度に大分大学を代表校とし、また、県内の大学等を連携校とした 3 ヶ年事業を文部科学省に申請し獲得した「戦略的連携支援事業」について、連携校と引き続きその推進に努め、事業目的の達成に努めました。また、平成 23 年度以降の大学間連携事業の在り

方について検討を行い、「地域連携研究コンソーシアム大分」及び「大学コンソーシアムおおいた」の取組に加え、新たな地域の知の拠点組織として、地域の教育力・文化力の向上、地域の発展に貢献することを目的とした教育連携活動を行うため、「とよのまなびコンソーシアムおおいた」を設立するとともに、平成 23 年度の早い時期にこれらの統括組織として「大学高等教育協議会（仮称）」を設置する方向で大学間連携の推進を図ることとしました。

- ③ 平成 18 年度に大分大学との間で協定を締結し、平成 20 年度から実施している学部学生の単位互換制度の活用推進に努めるとともに、「戦略的連携支援事業」の一つである教育連携事業の中で共通教育としてオムニバス形式の授業科目「大分の人と学問」を開講し、本学の教員が授業を担当するなどその充実を図りました。
- ④ 平成 20 年度に実施した自己点検・評価、学生による授業評価及び学生満足度調査をまとめ、それを大学事務局に情報コーナーを設置して公表するとともに、充実した学生生活を送るための満足度調査の結果に対する改善への取組を提示するなど逐次その改善に努めました。
- ⑤ 短期大学基準協会の評価項目に則って自己点検・評価及び学生による授業評価を平成 22 年度も引き続き実施し、その結果を自己点検評価報告書として取りまとめ、更なる改善・充実を図りました。
- ⑥ 短期大学部では授業計画書（シラバス）のデータベース化を図り、学生がパソコンで閲覧できるようにシステム構築を図るなどその内容の充実に努めました。

##### 2) 高度情報化への対応

- ① マルチメディア教材の利用が可能となるよう講義室のスクリーン、プロジェクター等の整備及びメディア教育・研究センターの基幹設備であるサーバーの統合や外部との接続 LAN の増強、大分キャンパスとの LAN の増強に取り組みました。
- ② 短期大学部では大邱科学大学（韓国）と平成 21 年 10 月から通信メディアを利用した遠隔交流授業を試行的に開始するとともに、「通信メディアを活用した交流に関する覚書」を締結し、その推進を図りましたが、この実績を検証しつつ、今後も引き続き遠隔交流授業を推進することとしました。

##### 3) 地域交流活動の推進

- ① 別府大学の知的財産や施設を活用して、各協定市町村との地域交流活動の推進に努めました。平成 22 年度はその一つとして別府大学 60 周年記念事業としてフォーラム「別府診断」を実施し、諸課題の分析と将来の提言を行いました。
- ② 平成 22 年 1 月に別府大学と大分県が農業の文化振興面において協定を結び、大分農業文化公園に新しく整えた棚田での米作りを通じて農山村の魅力を発信するとともに、収穫した米を大学祭（石垣祭）で販売・活用するとともに、県の農業祭で活動状況の報告を行いました。
- ③ 竹田市、杵築市、姫島村、大分市、豊後高田市及び日出町と同趣旨の交流協定を締結し、その推進・充実に取り組みました。また、竹田市の由学館セミナーへの協力、大学博物館での田染の荘に関する特別展示を実施しました。

##### 4) 国際交流の充実

平成 21 年度は新型インフルエンザの流行もあって別府大学国際セミナーの開催を中止しましたが、平成 22 年度は、その在り方、内容等の見直しを行うとともに、中国、台湾、韓国の姉妹校等延べ 25 校から 302 名の学生の参加を得て夏、冬 2 回の国際セミナーを開催しました。

##### 5) 学生の学業・スポーツ・文化芸術活動の充実

スポーツ、芸術・文化活動において優秀な成績を取った学生に対して理事長奨励賞を授与するなどその取組を推進するとともに、別府大学・別府大学短期大学部学生表彰規程を制定し、学業、学術研究活動及び課外活動で優秀な成績等を修めた学生及び団体に対し学長表彰を行いました。

##### 6) 図書館の地域連携の推進

「別府大学地域連携プログラム」として、地域の学会の文献を公開する機関リポジトリを立ち上げ、交流協定のある国東市から提供を受けた三浦梅園の原文イメージなどの公開を進めました。この結果、コンテンツ量は 6,000 件に達し、閲覧された件数も累積で 30 万件を超え、九州地区の私立大学でトップの座を占めるに至りました。

##### 7) 別府大学創立 60 周年記念事業の実施

新制大学としての別府大学が発足して 60 周年を迎えることから、創立 60 周年の記念事業を文学部が中心となり企画・実施し、13 の公開講座、シンポジウム、書道展、企画展等を開催するなど期待される成果を収めることができました。

##### (3) 学生支援活動の推進

###### 1) キャリア（資格・就職）支援等の充実

- ① 平成 21 年度文部科学省から認められた「大学教育・学生支援推進事業－学生支援推進プログラム」の事業計画に基づき、全学的・体系的な就職支援・キャリア教育をめざす総合対策プランの推進に取り組みました。また、平成 21 年度に実施した学生満足度調査の結果を踏まえつつ、学生が進路情報センターを訪れやすくなるための工夫をはじめとした改善への取組を提示するなど学生支援の充実に努めました。

- ② 就職委員会、教職課程委員会等の各委員会及び各学科の教員と連携協力し、資格取得・就職対策講座及び学内外の企業合同説明会等を積極的に開催するとともに、FD研修会において「学士力・キャリア教育向上」をテーマに取り上げ、教職員の取り組み姿勢の向上を図るなど学生の進路・就職支援の充実に取り組みました。
- 2) 生活相談等の支援の充実
  - 学生寮（民間住宅の借上）の斡旋による宿舍の確保、健康相談や悩み相談など学生相談の充実に努めました。
- 3) 防犯パトロール隊の結成
  - 別府警察署と連携して、大学近辺での不審者による被害の防止及び防犯意識の向上を目的とした別府大学防犯パトロール隊を学生有志の協力のもとに編成し、その活動を引続き推進しました。
- (4) 学生募集対策の推進
  - 1) 学生募集戦略会議の基本方針を踏まえ、オープンキャンパス、高等学校訪問、高大連携の推進、別府大学同窓会との連携強化など学生募集に係る活動を引き続き積極的に実施するとともに、平成22年度には大学創立60周年記念事業の一環として、入学前教育という趣旨を含め「大学の知と文化を体験しよう」というテーマで別府大学セミナー2010in 北九州を実施するなど学生の確保に努めました。
  - 2) 大学通信「Be-News」を大幅に刷新して学生募集の広報誌として位置づけるとともに、県内募集のための広報誌として『別府大学ニュース』を発刊し、学生募集のための情報発信を強化しました。

## 2. 附属学校

### (1) 明豊中学校、明豊高等学校

#### ① 中高一貫教育への取組

中学3年次に高校1年の課程を履修する「先取り教育」を実施するとともに、高等学校3年次に特別学習の時間を取り入れ、大学進学への十分な対策を講じるなど新たな教育課程を編成しました。

#### ② 中学校と小学校の連携と一貫教育の推進

総合的な学びの場としての特色を生かし、小学校と中学校の9年間の連続した学びの中で、基礎・基本に支えられた確かな学力を培う一貫教育を実施するための教育課程や指導方法等の検討を進めました。

#### ③ 学力向上対策

選抜特進クラスの高校2学年及び3学年においては、大学受験を目指した自主学習の確立と集中力を養うための勉強合宿を実施しました。特に高校3年においては、自己の学習方法を見直すとともに、英・数・国・理のレベルアップを図りました。その結果、別府大学へ25名、別府大学短期大学部へ12名、その他同志社大学などの私立大学へ37名、熊本大学などの国立大学へ25名、専門学校へ6名の計105名が進学することができました。また、看護専攻科においては勉強合宿を通して看護師の国家試験対策を図った結果、全員が国家試験に合格しました。

#### ④ 部活動・学校行事の充実

全国大会出場を目指した強化部活動の充実を図るとともに、運動部及び文化部の活動を通し、チャレンジ精神を涵養しました。また、創立記念行事・文化祭・体育大会・遠足・クラスマッチ・修学旅行・宿泊研修等を通じて社会性や豊かな人間性を育てる教育を実施しました。

#### ⑤ 特色のある授業への取組

社会科の「九州文化財探訪」は、実地見学による新たな発見を生み、また、看護科の「里帰り懇談会」は、先輩の経験を聞き取り組みにより、新たな生徒募集に繋がりました。

### (2) 明星小学校

第12回ショパン国際ピアノコンクール in A S I A九州地区大会において、小学3・4年生の部及び5・6年生の部で金賞を受賞するとともに、全国大会に出場するなど優秀な成績を収めました。また、作文、書道、硬筆、絵画コンクールにおいても金賞等を受賞するなど芸術文化活動において目覚ましい活躍をしました。また、スポーツ活動においても大分県ジュニア年齢別テニス選手権において優勝するなど目覚ましい活躍をしました。

### (3) 附属幼稚園、明星幼稚園

#### ① 新幼稚園教育要領とこれまでの実践に基づき、教育課程・指導計画を2年計画で改訂するとともに、附属幼稚園では「2011年度教育課程・指導計画」として取りまとめ平成22年3月に発行しました。また、この教育課程・指導計画を短期大学部初等教育科と保育科の授業用テキストとして使用することとしました。

#### ② 附属幼稚園創立50周年記念式典及び記念音楽会を開催するなど多くの記念行事を実施するとともに、記念誌として50年のあゆみ等をまとめた「ぐんぐん」を発行しました。

### (4) 附属看護専門学校

平成21年度に改正した看護基礎教育の教育課程に沿った新カリキュラムを実施しました。このことにより「統合分野」の科目が4科目増加し、新たに授業と臨地実習が増えたため、その授業の割り振りや実習施設の確保に努めました。

### (5) 境川保育園、春木保育園

新保育所保育指針に基づき改訂した保育課程を基に、子どもが自ら

自発的にやる気を持つ保育の実施などクラス指導計画を立案し、実施しました。実習生を積極的に受入れるなど将来に向けた人材養成に取り組むとともに、園庭開放による地域の子育て支援を行いました。

## 3. 地域貢献・文化推進事業

### (1) 地域貢献の推進

地域貢献活動を奨励する観点から、教職員が地域に貢献したことについてマスコミで報道されるなど顕著な業績があった場合に、理事長奨励賞を授与する制度を新設しました。その結果、本年度は16人の教職員がこの奨励賞を授賞しました。

### (2) 大分香りの博物館事業の推進

大分県による体験型香り文化振興事業として、「香水づくりPチ体験」を県内5ヶ所で実施して香り文化への意識の高揚を図るとともに、前年度に引き続き、「香りの文化講座」を実施し、香りの文化の振興に努めるとともに、当博物館の収蔵品、歴史パネル等を通じて香りの文化意識の向上を図りました。

### (3) ゆふの丘プラザ

地域との連携や大学の講師の活用による研修プログラムを実施するとともに、特に新入生やリーダー研修会をはじめ、県高等学校剣道、県女子柔道などの合宿を充実させるなど研修施設としての機能強化を図りました。

## 4. 学生・生徒・児童・園児の在籍者数

学校法人全体の学生・生徒・児童・園児数は、次の表のとおり4,668人で前年度より155人減少しました。

平成22年5月1日現在(単位:人)		
学 校	学 科 等	H22年度
大学院・学部	大学院	72
	文学部	1,442
	食物栄養科学部	402
	国際経営学部	189
	別科日本語課程	74
	小 計	2,179
短期大学部	食物栄養科	104
	初等教育科	274
	地域総合科学科	211
	保育科	113
	専攻科	47
	小 計	749
附属看護専門学校	全日・通信制課程	259
明豊高等学校	全日・通信制課程	573
明豊中学校		146
明星小学校		299
附属幼稚園		141
明星幼稚園		184
境川保育園		66
春木保育園		72
	合 計	4,668

## III 財務の概要

平成22年度の収入については、昨年に引き続き、帰属収入の柱である学生を確保し、学生納付金収入の増加を図ることを最重点課題として捉え、県内及び九州地区を中心とした募集活動の強化を図りました。また、学校法人の経営基盤をより一層強化し、充実した学校運営を実施するためには外部資金を確保することが極めて重要となっています。特に教育研究基盤をより強化するためには、科学研究費補助金等の外部資金の確保を図ることが重要であり、本年度においては採択件数11件、補助金額32百万円と対前年度より補助金額において僅かながら増加しましたが、今後、申請件数の増加策などより一層の工夫が必要となっています。また、寄附金についても創立100周年記念事業募金に替わる募金として、新たに教育研究振興資金（目標額5億円、平成22年4月1日～平成30年3月31日）を創設し、募金活動を積極的に推進しましたが、本学校法人の使命である教育研究活動をはじめとする諸活動を持続的に発展させ、時代の要請に応えていくためには、より一層の努力が必要となっています。

一方、支出については、中期財務計画及び事業計画等をもとに収支バランスの取れた財務内容を維持しつつ、予算の計画的・効率的な執行を図るとともに、キャンパス毎の削減目標額を定めた光熱水費の削減やアスクリーナの利用拡大による購買コストの削減など積極的な経費削減への取組を推進しましたが、今後、さらに安定した財政基盤の確立を図るためには、第4次中期財務計画に基づく計画的な経費削減を積極的に推し進めるなどより一層の取組が必要となっています。

(1) 貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	本年度末	前年度末	本年度末
<b>資産の部</b>			
固定資産	24,000	23,936	64
有形固定資産	15,486	15,641	△155
その他の固定資産	8,514	8,295	219
流動資産	4,098	4,103	△5
資産の部合計	28,098	28,039	59
<b>負債の部</b>			
固定負債	1,113	1,122	△9
流動負債	1,698	1,793	△95
負債の部合計	2,811	2,915	△104
<b>基本金の部</b>			
基本金の部合計	25,103	25,025	78
<b>消費収支差額の部</b>			
消費収支差額の部合計	184	99	85
負債、基本金及び消費収支差額の部合計	28,098	28,039	59

(2) 資金収支計算書

(単位：百万円)

科 目	予算	決算	増減
<b>収入の部</b>			
学生生徒等納付金収入	3,105	3,110	△5
手数料収入	57	52	5
寄附金収入	17	12	5
補助金収入	938	1,003	△65
資産運用収入	87	87	0
資産売却収入	0	0	0
事業収入	339	352	△13
雑収入	196	219	△23
借入金等収入	0	0	0
前受金収入	1,543	1,393	150
その他収入	574	544	30
資金収入調整勘定	△1,757	△1,730	△27
当年度収入合計	5,099	5,042	57
前年度繰越支払資金	3,884	3,884	0
収入の部合計	8,983	8,926	57
<b>支出の部</b>			
人件費支出	3,013	3,011	2
教育研究費支出	817	781	36
管理経費支出	319	270	49
借入金等利息支出	0	0	0
借入金等返済支出	0	0	0
施設関係支出	400	399	1
設備関係支出	61	54	7
資産運用支出	505	547	△42
その他の支出	286	264	22
予備費	10	0	10
資金支出調整勘定	△256	△255	△1
当年度支出合計	5,155	5,071	84
次年度繰越支払資金	3,828	3,855	△27
支出の部合計	8,983	8,926	57

(3) 消費収支計算書

(単位：百万円)

科 目	予算	決算	増減
<b>消費収入の部</b>			
学生生徒等納付金	3,105	3,110	△5
手数料	57	52	5
寄附金	34	31	3
補助金	938	1,003	△65
資産運用収入	87	87	0
事業収入	399	352	△13
雑収入	196	219	△23
帰属収入合計	4,756	4,854	△98
基本金組入額合計	△39	△77	38
消費収入の部合計	4,717	4,777	△60
<b>消費支出の部</b>			
人件費	2,966	3,002	△36
教育研究費	1,368	1,334	34
管理経費	376	330	46
借入金等利息	0	0	0
資産処分差額	0	11	△11
徴収不能額	10	15	△5
予備費	10	0	10
消費支出の部合計	4,730	4,692	38
当年度消費収入超過額	△13	85	△98
前年度繰越消費収入超過額	99	99	0
翌年度繰越消費収入超過額	85	184	△99

(4) 財産目録

(単位：百万円)

区 分	金 額	
<b>資産額</b>		
<b>1 基本財産</b>		
土地	187,490 m <sup>2</sup>	3,789
建物	87,427 m <sup>2</sup>	8,488
図書	347,719 冊	1,304
教具・校具・備品	14,212 点	1,019
その他		1,127
	小計	15,727
<b>2 運用財産</b>		
現金預金		3,855
積立金		8,022
土地	3,030 m <sup>2</sup>	206
建物	673 m <sup>2</sup>	40
収益事業元入金		3
その他		245
	小計	12,371
<b>3 収益事業用財産</b>		
		5
<b>資産総額</b>		28,103

負債額	
1 固定負債	
長期借入金	0
退職給与引当金	1,113
2 流動負債	
短期借入金	0
前受金	1,393
その他	305
3 収益事業用負債	1
負債総額	2,812
正味財産(資産総額－負債総額)	25,291

(5) 収益事業の状況

国際交流会館及びゆふの丘プラザは、私立学校法第26条に基づく収益事業（請負業）として、平成22年6月2日に認可されました。これらの事業による収益は、本校法人の教育研究活動に役立てられます。

① 貸借対照表

(単位：千円)

資産の部	
I 流動資産	4,779
II 固定資産	202
1 有形固定資産	( 202)
2 無形固定資産	( 0)
3 投資その他の資産	( 0)
資産の部合計	4,981
負債	
I 流動負債	540
II 固定負債	0
負債の部合計	540
純資産の部	
I 元入金	3,414
II 利益剰余金	1,027
当期純利益	( 1,027)
純資産の部合計	4,411
負債・純資産の部合計	4,981

② 損益計算書

(単位：千円)

科目	決算
I 売上高	56,510
II 売上原価	0
売上総利益	56,510
III 販売費及び一般管理費	55,282
営業利益	1,228
IV 営業外利益	5
V 営業外費用	0
経常利益	1,233
VI 特別利益	0
VII 特別損失	206
税引前当期純利益	1,027
法人税・住民税及び事業税	0
法人税等調整額	0
当期純利益	1,027

監事 監査報告書

学校法人 別府大学

理事長 日高 紘 一 郎 殿

平成 23 年 5 月 10 日

学校法人 別府大学

監事 此本 英一郎 ㊟

監事 三浦 義人 ㊟

私たち監事は、私立学校法第37条第3項および学校法人別府大学寄附行為第15条に基づき、平成22年度(平成22年4月1日から平成23年3月31日まで)における学校法人の業務及び財産の状況について監査を行い、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法

- (1) 理事会および評議員会に出席して業務の報告を聴取し、また重要な決裁書類等を閲覧し、業務の妥当性を検討しました。
- (2) 重要な財産については、会計帳簿と証憑書類との実査照合等を行いました。また、公認会計士から会計監査の報告を受け、あるいは適時その監査に立ち会い、計算書類等の妥当性を検討しました。

2. 監査意見

- (1) 学校法人別府大学の業務は適正であり、その計算書類等は学校法人の財産の状況を適正に表示しているものと認めます。
- (2) 学校法人の業務または財産に関し不正の行為または法令もしくは寄附行為に違反する重大な事実はないものと認めます。

以上

# 新聞で紹介された別府大学・短大の活動

(2011年4月から2011年8月までの主なもの)

新聞社	内容
大分合同4/3	ワークライフバランス社会を実現するために (インタビュー) 【佐藤敬子准教授(キャリア支援センター)】
大分合同4/4	『生活転換』指針を期待(「私の誌面批評」欄) 「原発災害」に関連して 【飯沼賢司教授(史学・文化財学科)】
読売4/4	別府・鷹塚古墳、県内最大級の墳墓と判明 【文化財研究所、上野淳也助教】
大分合同4/5、4/17	美味求真プロジェクト 大分の味を全国に発信 【辻野功客員教授】
大分合同4/20	別府大附属幼稚園 創立50周年記念誌を発行 健やかな成長を見守り50年 【附属幼稚園】
大分合同4/21	別府市の鷹塚古墳の発掘調査を進める (「ひと」欄) 【上野淳也助教(史学・文化財学科)】
大分合同4/28	別府大学生が障害者らとラベル貼りなどで交流 【人間関係学科、三城大介准教授】
今日4/30、5/9	マイ箸を3000膳配布 別府大工コ研が別府駅で 資源を大切に 【別府大工コ研究会、阿部博光准教授】
大分合同5/2	別府大学が優勝 九州大学野球予選 【別府大学野球部】
今日5/2	別府大・短大でオープンキャンパス 模擬授業や先輩の助言
大分合同5/5	『大分学』研究10年 大分の自然や食、先人の魅力を発見、発信 【辻野功客員教授】
大分合同5/11	別府大短大分キャンパス 13日に音楽鑑賞会 ピアノとバレエ競演 【別府大学短期大学部 大分キャンパス】
大分合同5/12	佐伯市『佐伯藩資料 温故知新録9』発行 別府大の豊田学長が総編集 【豊田寛三別府大学長】
大分合同5/13	田植えシーズンを前に棚田で石拾い 【夢米棚田チーム(別府大)】
大分合同5/15、今日5/16	全国の上代日本文学研究者が一堂に 別府大で上代文学会大会 【浅野則子教授(国際言語・文化学科)】
大分合同5/14	日本の頑張る力 原発事故から何を学ぶか (「灯」欄) 【原尻正信明豊中学・高等学校長】
大分合同5/20	発酵食品学科初の女性教授 発酵・醸造の研究に誇り (インタビュー) 【岡本啓浩教授(発酵食品学科)】
大分合同5/20	食中毒を防ぐ家庭での注意ポイント 別府大短期大学部立松教授に聞く 【立松洋子教授(短大食物栄養科)】
大分合同5/22、5/25	県内大学が高等教育協議会を設立 組織横断的に活動 地域の課題解決に一役 【大分高等教育協議会】
西日本5/25、朝日5/26	食育の紙芝居 学生の手作り 希望者に提供 【立松洋子教授(短大食物栄養科)】
大分合同5/28	別府大「さつき祭」はじまる 我こそミスター別府大
大分合同5/29	東日本大震災のボランティア活動の報告会を開催 【別府大学短期大学部 大分キャンパス】
大分合同6/1	第21回豊墨会展の準備を進める 豊墨会会長 児玉範光さん (「ひと」欄) 【児玉元治教授(短大初等教育科)】
大分合同6/1	学生と幼稚園児が楽しく味噌づくり 【食物栄養学科、附属幼稚園】
大分合同6/7、今日6/6	別府大で「外交講座」 現職の外務省課長による出前講座 「地球環境」をテーマに
西日本6/14、大分合同6/14	田染荘で御田植え祭 大学生らが参加 【史学・文化財学科】
今日6/15、6/22	故賀川名誉教授振り返る 18日別府大で史学研究会大会 【史学・文化財学科】
大分合同7/1	アスリートの食事 乳製品・果物の摂取を 【平川史子准教授(食物栄養学科)】
大分合同6/11	甲子園は待っている (「灯」欄) 【原尻正信明豊中学・高等学校長】
朝日6/20、大分合同6/22	別府大学生が自分たちで復元した棚田で古代米づくりに挑戦 【夢米棚田チーム(別府大学)】
大分合同6/24	別府大短大の卒業生有志がグッズを作って被災地を支援 【短大食物栄養科】
大分合同6/25、読売7/1	杵築発祥の地 五田遺跡で青銅鏡や鋤先、古墳を発見 別府大が分析 【文化財研究所】
今日6/25	別府大生らノリノリ 創作遊び作家を招いて体験学習 【短大初等教育科、保育科、附属幼稚園】
大分合同7/4	原発廃炉跡「負の遺産」に (「私の誌面批評」欄) 【飯沼賢司教授(史学・文化財学科)】
毎日7/5、今日7/16	毎日書道展 別府大生3人受賞 U23の新鋭賞に岡さん羽田野さん、奨励賞に藪さん 【別府大書道研究室】
大分合同7/5	「連載 親子でつくる郷土料理教室」 酒まんじゅう 米に麹菌加え、ます甘酒づくり 【西澤千恵子教授(食物栄養学科)】
今日7/7	別府大1年生が別府大を訪問 大学で学ぶ意義などを学ぶ 【別府大学高大連携事業】
朝日7/10、大分合同7/10	男子学生による「朝ごはん」調理コンテスト 慣れない手つき、悪戦苦闘!? 【平川史子准教授(食物栄養学科)】
大分合同7/17、今日8/15	別府大・阿部准教授が本出版 自然エネルギー、県の実力知って 【阿部博光准教授(国際経営学科)】
大分合同7/19	今こそ、村山元首相に学べ (「灯」欄) 【原尻正信明豊中学・高等学校長】
大分合同7/21	別府大で国際セミナー開校式 ロシアや韓国、台湾の学生60人が出席 華道など日本文化学ぶ
今日7/20	「キキモちゃん」のイメージキャラクター 別府大留学生の作品に決定 【国際言語・文化学科マンガアニメーションコース】
大分合同7/21	政策立案の過程示して (インタビュー記事、「変わる審判 現職受難の首長選挙」) 【辻野功客員教授】
大分合同7/21	別府大助教の有吉宏明さん 田川市美術館「英展」で佳作 【有吉宏明助教(短大初等教育科)】
今日7/21	青山校2年生が探究学習で別府大を訪問 多様なテーマで講義を聴く 【別府大学高大連携事業】
大分合同7/22、今日7/21	短大生が「一日食品衛生監視員」 食中毒防止キャンペーンに協力 【短大食物栄養科】
大分合同7/26	第2回大分ユーモアまんが大賞の作品を募集 「特講マンガ塾」も開催 【国際言語・文化学科マンガアニメーションコース】
大分合同7/28ほか	明豊高校2年ぶり優勝 高校野球大分大会 文理大付を圧倒 【明豊高校】
毎日8/2	甲子園出場の明豊率いる 和田正監督 選手を持ち味引き出す 【明豊高校】
大分合同8/8	若者への食育 短大生が一役 伝統色文化などPRへ 【短大食物栄養科】
大分合同8/8	全日本学生なぎなた選手権 別府大の下部・城間組、演技で優勝 【別府大学なぎなた部】
今日8/8	上人平田・西町の合同防災訓練 別府大学生も参加
大分合同8/9	中津アーカイブズ開講 “生きた教材” 有効活用を 【丑木幸男教授(史学・文化財学科)】
今日8/10	第8回子どもの読書活動推進研修会 マリ・クリスティエーヌさん講演 【佐藤允昭教授(司書課程)】
大分合同8/12	別府大学が市民フォーラム「発酵天国大分の食と健康」を開催 【発酵食品学科】
大分合同8/14	別府大生グループ 杵築で研究中の稲の周辺の草取り 【夢米棚田チーム(別府大学)】
大分合同8/21	別府大学書道席上揮毫大会 高校生が参加 真剣に挑む 【別府大書道研究室】

## 表紙の挿絵



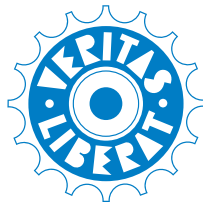
「雨上がりに満ちる」S100 油彩  
敷島 唯 (絵画表現コース研究生)

### 作者コメント

例えば、さなぎが蝶になるように。“何か”を脱ぎ捨てて、新しくなるように…。そんなことを思いながらこの作品を描きました。

## 編集後記

今号では、「特集」として就職支援、「教育Close-Up」として人間関係学科の実学教育と短期大学部の免許・資格教育を取りあげました。本学は、基礎学問に根差した教育に取り組む一方、社会において即戦力として活躍できる実学教育も並行して行ってきました。そのような教育を活かすため、今年度、「キャリア支援センター」を開設し、学生のキャリア意識の向上に重点を置いた支援を新に展開しています。本学は今後とも学問の本質に根差しながら、社会のニーズに対応した人材育成を目指して行きます。(友永)



---

**Be-News** 2011.Autumn (別府大学通信 No.103)

編集 別府大学メディア教育・研究センター 広報部  
発行日 平成 23 年 9 月 29 日  
印刷 佐伯印刷株式会社

---